

天声人語

一瞬にかける選手たちにとつて、9秒半から10秒という時間は意外に長いのかもしない。100mを走る間に、信じられないくらい多くのことを考えるルト選手が著書で述べている▼いい走り出しの選手がいれば、「クソッ！」どうやつたら、そんなスタートが切れるっていうんだ？」と悔しがる。加速でもたつぐと、過去のレースの教訓を思い出すよう自分に言い聞かせる。「パニックになるな」とも▼その彼がまたも、「世界最速」であることを証明した。北京、ondon、リオと五輪陸上男子100mで3連覇した。加速装置でもついているかのように追い上げながら、どんな思案が行き交ったのだろうか▼これが「最後の五輪」だという。記録は破られるためにあるなら、自身の持つ9秒58の世界記録は後進に塗り替えられるのを待つ運命にある。しかし、史上初の3連覇が乗り越えられる日は、想像できない▼決勝に出た「ファイナリスト」は、9秒台で走る選手たちがひしめいていた。そこには届かなかつたが、準決勝での日本選手もたしかな走りを見せた。大舞台で自己新記録を出した山県亮太選手は、霧雨気に押されることはなかつたと話した▼走り出す直前を切り取った歌だろう。スタート・ブロック一気に蹴らむその四肢の力たわめて膝つく走者）古谷智子。東京五輪に向け、力を解き放っていく次のスターは誰だろう。いまだ見えないのは、楽しみが多いということだ。

2016・8・16